

善隣

No.503 通巻770

2019年（令和元年）5月1日発行（毎月1日発行）

2019

5



一般社団法人 国際善隣協会



囲碁同好会 一石会 対局風景 (2019年3月8日)

善 隣 目 次 2019年 5 月号

公開講演会記録

A I 時代の教育改革鈴木 寛 2

シルクロード最大の謎「楼蘭」.....井上隆史 11

引揚者となる人たちと歌の場面

—外地居留時、抑留時、避難時、引揚船内で、そして戦後日本社会で
そのとき歌い、そのとき聴いた〈そのⅡ〉藤川琢馬 20

会員彼是

台湾に根付く日本

—洞蕎麦松島めぐみ 26

長野一泊ツアー戊亥芳秀 27

中国ウォッチング編・訳 上松玲子 28

コラム 〈腰折れ文〉二十一、渡邊澄子 30

陶々俳壇馬場由紀子選／上野 京 31

協会通信・会員だより・同好会だより 32

2019年 5 月の行事予定 33

善 隣 第503号 通巻770号

2019 (令和元) 年 5 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5

一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03 (3573) 3051

FAX 03 (3573) 1783

発行人 矢野一彌

印刷所 (旬)ゆにおんプレス

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

みんなの写真館 32

公開講演会記録

AI時代の教育改革

東京大学・慶應義塾大学教授、元文部科学副大臣、前文部科学大臣補佐官

鈴木 寛



はじめに

2020年度から、小中高の学習指導要領と入試制度が大きく変わる。

学習指導要領は、小中高を通じて、アクティブ・ラーニング（主体的で対話的で深い学び）の要素を取り入れるとともに、小学校においては、英語とプログラミングが導入され、高校においては、理数探究、総合探究、公共、歴史総合、地理総合などの科目が導入される。

入試については、1次試験について、1979年の共通1次試験以来、マークシート、マルチプルチョイスのみであった大学入試センター試験が約40年ぶりに改められ、2020年度から「共通テスト

ト」に代替えし、記述式が導入されるとともに、より思考力を問う問題が増える入試に変更されるほか、英語については、4技能（読む、聴く、書く、話す）の能力を見るため民間の英語検定試験が導入される。2次試験については、国立大学が、入学定員の約3割を、いわゆるAO／推薦入試による選考とするほか、2次試験において、小論文はじめ何らかの論述を導入する。こうした動きに連動して、私立大学の雄である早稲田大学政経学部が、論述の導入、英語4技能を問う民間試験の導入、数学の必修化を決定した。こうした動きを受け、高校の学びは大きく変容し始めているし、私立中学校の入試傾向も変わり中学受験をめざす小学校の学びも変容しつつある。

さらに、2018年6月、林芳正文部科学大臣（当時）が座長で、筆者が座長代理を務めた「Society5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会」が「Society5.0に向けた人材育成／社会が変わる、学びが変わる」（通称・林レポート）を発表したが、最大のメッセージは、「公正な個別最適化」と「文理分断からの脱却」であった。日本国憲法第26条では、「ひとしく教育を受ける」という文言があり、日本の公教育は、これまで「平等」という価値を極めて重視し、義務教育段階の都市と地方の学力格差などは解消されるなど多くの成果をあげたことは事実だが、その一方で、一人一人の児童・生徒の個別の状況に応じた最善の学びが難しくなっている現状もあり「公正な個別最適化」

が打ち出された。また、高校・大学の学びにおいて、文理の分断が進んでおり、21世紀に入り、複雑化する社会の諸問題を解決するには、文理双方の学知が必要であるとの方向が示された。

日本の教育の現状 学力は世界トップに返り咲いた日本の15歳

OECDが世界各国の15歳を対象に2000年から3年ごとにPIISA調査を行っているが、特に、2003年、2006年の読解力が中位に落ちてしまったことを受けて、日本中が、PIISAショック、あるいは学力低下問題ということで大騒ぎになった。

その後、関係者の努力によって、2012年そして2015年において、読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシーこの3科目を総合すると、35のOECD加盟国中、日本の15歳は堂々トップに返り咲いている。この結果は各国の平均と比較しているものであるが、学力階層別に見ても、例えば、数学については2015年調査において、日本はレベル5以上（6段階中の最上位）の生徒が20・3%、これにレベル4以上を加えると46・2%となっており、米国のレベル5以上

が5・9%、レベル4以上を加えて20・6%であることと比較すると、いかに、日本のパフォーマンスが優れているかわかる。

もちろん、日本の小学校・中学校においても、いじめや不登校あるいは発達障害に対する特別支援といった課題があり、さらなる取り組みが求められているが、こと学力については、素晴らしいパフォーマンスにある。

2009年に筆者が文部科学副大臣に就任し、日本の学力問題は、塾に行ける児童・生徒といけない児童・生徒との学力格差問題であると分析し、様々な問題・課題を抱える中学校への教員の加配（追加配置）を実施した。さらに、放課後子ども教室やコミュニティ・スクールを一举に増加させ、多くの地域住民や学生が、学校ボランティアとして、学校現場に入りはじめ、子どもたちの授業内及び放課後の学習支援（読み聞かせ、作文、計算指導の補助）に協力を始めた。これらの人的な面での改革が、よい学校づくりに大きく寄与していることはまちがいないと思われるが、むしろ、学力向上に直接的に寄与したのは、新たな学習法の家庭学習での普及である。

読解力向上の背景には、日本の小学生、

中学生の不読者率（1月に1冊も本を読まない児童・生徒の比率）の減少が大きい。朝の読書活動を各学校で徹底した結果、小学生では4%、中学生では15%を下回るようになっていく。

一方、計算力の向上については、従前から、公文式はじめ民間教育の普及により、塾や民間教育を受けさせられる家庭の子女についての算数・数学の能力は高かったが、塾にいけない子どもには、これらの学習法は届いていなかった。そうしたなかで、兵庫県の日本海側の朝来市という民間教育へのアクセスが不可能な町の山口小学校の教諭であった陰山英男氏が考案し、実践していた「百マス計算」という学習法に、民間出版社が注目した。それが大量頒布可能な教材となり、保護者の間で爆発的な人気となり家庭学習で活用されたことと、いくつもの市町村教育委員会が積極的な導入に努め、学校でも副教材として活用可能になったことが直接的に影響している。

また、タブレットなどを用いたIT活用した教育・学習の導入・普及についても、学校教育だけでなく、公立小中学校で児童・生徒全員にタブレット端末を配っている渋谷区と各公立小・中学校に圧倒的なIT環境整備への投資を行って

いる、つくば市などの一部の地方自治体や私立学校を除いて、その進捗が低調であり、報道などでも、シンガポールや韓国にくらべてIT活用教育後進国のような論調での報道が散見される。しかしながら、民間教育と家庭学習に目を転じてみると、ベネッセが実施している小中学生向けのタブレット講座だけで2018年4月時点で累計214万台（ベネッセ調べ）のタブレットPCがわが国の小中学生に配られている。同種のジャストシステムのスマイルゼミもあわせると、それだけで250万台程度のタブレットがすでに配布されており、多くの小中学生が家庭ではタブレットを使って学習している。おそらく、人口が2000万人を超える国で、これだけの割合の小中学生がタブレットで学習している国は、世界でも類を見ないと思われる。

世界大学ランキングでも、近年、日本は健闘

THE (Times Higher Education) が実施している世界大学ランキングをみても、東大の低迷ばかりが報じられるが、総じて日本の大学は近年健闘している。この調査は世界中の大学のうち上位5%

の大学をトップ大学としてノミネートしているものであるが、現在と比較可能な大学数が概ね整った2015～2016年期からの推移を見ると、2015～2016年シーズンには、全体で800大学がトップ大学にノミネートされ、そのうち、日本の大学は41校（全トップ大学の5・1%）、2016～2017年シーズンは、全981大学中、日本が69校（全トップ大学の7・0%）、2017～2018年シーズンは、全1103大学中、日本が89校（全トップ大学の8・1%）、2018～2019年シーズンは、全1258大学中、日本が103校（全トップ大学の8・2%）となり、ついに、英国の98校を抜いて2位に躍り出た。ちなみに、社会全体で、日本の約6倍の投資を大学に対して行っている米国が172校である。もちろん、大学によって学生数はじめ規模がかなりバラバラであり、大学の数を比較すること自体にどれだけの意味があるのかは、疑問なしとはいえないが、日本の大学の健闘ぶりやROIの高さは類推することはできる。

英11校、独8校、オランダ7校、豪州6校、加5校、スウェーデン3校、スイス3校、香港3校、中国3校となっており、最上位校に課題を抱えていることがわかる。一方で、2001年から2018年までの自然科学系のノーベル賞受賞者は、米国70名、日本17名、英国12名、仏8名、独6名となっている。

ここも、日本はどうしたいのか？ つまり、東大を25位以内に返り咲かせたいのか？ それとも東大・京大だけでなく、東北大、名古屋大、大阪大、東工大などを100位に入れたいのか？ 引き続きノーベル賞を受賞しつづけたいのか？ 重視すべき価値、目標設定次第で戦略や投資配分は変わってくる。

人生100年時代を生きる子どもたち・若者たちのための教育改革

2020年度から本格化する今回の教育改革が対象としている児童、生徒は、その多くが、2100年まで生きる可能性が高い。まさに22世紀まで生き、22世紀を作っていく次世代の人生の基礎、基本、土台となる教育を彼らに提供していくということが、今回の教育改革の最大の目的である。

代替可能性が高い100種の職業（50音順）①

ㇿC生産オペレーター	ㇿ行政事務員（県市町村）	ㇿ自動車塗装工
ㇿ一般事務員	ㇿ銀行窓口係	ㇿ出荷・発送係員
ㇿ鋳物工	ㇿ金属加工・金属製品検査工	ㇿじんかい収集作業員
ㇿ医療事務員	ㇿ金属研磨工	ㇿ人事係事務員
ㇿ受付係	ㇿ金属材料製造検査工	ㇿ新聞配達員
ㇿA V・通信機器組立・修理工	ㇿ金属熱処理工	ㇿ診療情報管理士
ㇿ駅務員	ㇿ金属プレス工	ㇿ水産ねり製品製造工
ㇿN C研削盤工	ㇿクリーニング取次店員	ㇿスーパー店員
ㇿN C旋盤工	ㇿ計器組立工	ㇿ生産現場事務員
ㇿ会計監査係員	ㇿ整備員	
ㇿ加工紙製造工	ㇿ経理事務員	
ㇿ貸付係事務員	ㇿ検収・検品係員	
ㇿ学校事務員	ㇿ検針員	
ㇿカメラ組立工	ㇿ建設作業員	
ㇿ機械木工	ㇿゴム製品成形工（タイヤ成形を除く）	
ㇿ寄宿舎・寮・マンション管理人	ㇿこん包工	
ㇿCADオペレーター	ㇿサッシ工	
ㇿ給食調理人	ㇿ産業廃棄物収集運搬作業員	
ㇿ教育・研修事務員	ㇿ紙器製造工	
ㇿ行政事務員（国）	ㇿ自動車組立工	

代替可能性が高い100種の職業（50音順）②

ㇿ製パン工	ㇿ電気通信技術者	ㇿ保険事務員
ㇿ製粉工	ㇿ電算写植オペレーター	ㇿホテル客室係
ㇿ製本作業員	ㇿ電子計算機保守員（I T 保守員）	ㇿマシニングセンター・オペレーター
ㇿ清涼飲料ルートセールス員	ㇿ電子部品製造工	ㇿミシン縫製工
ㇿ石油精製オペレーター	ㇿ電車運転士	ㇿめっき工
ㇿセメント生産オペレーター	ㇿ道路バトロール隊員	ㇿめん類製造工
ㇿ繊維製品検査工	ㇿ日用品修理ショップ店員	ㇿ郵便外務員
ㇿ倉庫作業員	ㇿバイク便配達員	ㇿ郵便事務員
ㇿ惣菜製造工	ㇿ発電員	ㇿ有料道路料金収受員
ㇿ測量士	ㇿ非破壊検査員	ㇿレジ係
ㇿ宝くじ販売人	ㇿビル施設管理技術者	ㇿ列車清掃員
ㇿタクシー運転者	ㇿビル清掃員	ㇿレンタカー営業所員
ㇿ宅配便配達員	ㇿ物品購買事務員	ㇿ路線バス運転者
ㇿ鋳造工	ㇿプラスチック製品成形工	
ㇿ駐車場管理人	ㇿプロセス製版オペレーター	
ㇿ通関士	ㇿボイラーオペレーター	
ㇿ通信販売受付事務員	ㇿ貿易事務員	
ㇿ精卸作業員	ㇿ包装作業員	
ㇿデータ入力係	ㇿ保管・管理係員	

代替可能性が低い100種の職業（50音順）①

ㇿアートディレクター	ㇿ芸能マネージャー	ㇿ社会福祉施設指導員
ㇿアウトドアインストラクター	ㇿゲームクリエイター	ㇿ獣医師
ㇿアナウンサー	ㇿ外科医	ㇿ柔道整復師
ㇿアロマセラピスト	ㇿ言語聴覚士	ㇿジュエリーデザイナー
ㇿ犬訓練士	ㇿ工業デザイナー	ㇿ小学校教員
ㇿ医療ソーシャルワーカー	ㇿ広告ディレクター	ㇿ商業カメラマン
ㇿインテリアコーディネーター	ㇿ国際協力専門家	ㇿ小児科医
ㇿインテリアデザイナー	ㇿコピーライター	ㇿ商品開発部員
ㇿ映画カメラマン	ㇿ作業療法士	ㇿ助産師
ㇿ映画監督	ㇿ作詞家	
ㇿエコノミスト	ㇿ作曲家	
ㇿ音楽教室講師	ㇿ雑誌編集者	
ㇿ学芸員	ㇿ産業カウンセラー	
ㇿ学校カウンセラー	ㇿ産婦人科医	
ㇿ観光バスガイド	ㇿ歯科医師	
ㇿ教育カウンセラー	ㇿ児童厚生員	
ㇿクラシック演奏家	ㇿシナリオライター	
ㇿグラフィックデザイナー	ㇿ社会学者	
ㇿケアマネージャー	ㇿ社会教育主事	
ㇿ経営コンサルタント	ㇿ社会福祉施設介護職員	

代替可能性が低い100種の職業（50音順）②

ㇿ心理学研究者	ㇿネイル・アーティスト	ㇿマンガ家
ㇿ人類学者	ㇿバーテンダー	ㇿミュージシャン
ㇿスタイリスト	ㇿ俳優	ㇿメイクアップアーティスト
ㇿスポーツインストラクター	ㇿはり師・きゅう師	ㇿ盲・ろう・養護学校教員
ㇿスポーツライター	ㇿ美容師	ㇿ幼稚園教員
ㇿ声楽家	ㇿ評論家	ㇿ理学療法士
ㇿ精神科医	ㇿファッションデザイナー	ㇿ料理研究家
ㇿソムリエ	ㇿフードコーディネーター	ㇿ旅行会社カウンター係
ㇿ大学・短期大学教員	ㇿ舞台演出家	ㇿレコードプロデューサー
ㇿ中学校教員	ㇿ舞台美術家	ㇿレストラン支配人
ㇿ中小企業診断士	ㇿフラワーデザイナー	ㇿ録音エンジニア
ㇿツアーコンダクター	ㇿフリーライター	
ㇿディスクジョッキー	ㇿプロデューサー	
ㇿディスプレイデザイナー	ㇿペンション経営者	
ㇿデスク	ㇿ保育士	
ㇿテレビカメラマン	ㇿ放送記者	
ㇿテレビタレント	ㇿ放送ディレクター	
ㇿ図書編集者	ㇿ報道カメラマン	
ㇿ内科医	ㇿ法務教官	
ㇿ日本語教師	ㇿマーケティング・リサーチャー	

参考 人工知能やロボットなどによる代替可能性が高い・低い100種の職業
（野村総合研究所 M・オズボーン准教授作成）

これからの100年間というのはどういう時代になるのか？ レイ・カーツワイルらによって、2045年ぐらいに人間の知性を人工知能が超えるシンギュラリティ（技術的特異点）が到来すると言われ、オックスフォード大学のマイケル・オズボーン准教授は、47パーセントの仕事がAIやロボットにとって代わられると言っている。世界経済フォーラムはインダストリー4.0を掲げ、OECDなどではVUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) の時代ということが言われるようになっていく。

わが国においても、今回の教育改革に先鞭をつけた下村元文科学大臣は、明治維新以来の改革ということを主張し、4人の大臣のもとで文部科学大臣補佐官を務めた筆者は、イギリス産業革命・フランス革命・アメリカ独立革命以来の近代国民国家システムが、今、大きく揺らぎ、それにかわる新たなガバナンスの創造が求められる250年ぶりの世界史・人類史上の大転換期を迎えつつあるとの歴史認識のもと、次世代が激動の時代を生き抜いていくために、今回の教育改革を行ってきた。

近代の重要な要素が、工業化、大量生産・大量流通・大量消費の普及・徹底で

あった。1つのお手本を不良なく、大量にコピーする。そのことでGDPを増やし、さらに個人所得を増やす、ということであった。1980年代には『ジャン・アズ・ナンバーワン』という本も出版されたが、「工業社会に資する人材の育成」において、我が国では、見事その教育に大成功した。

20世紀の教育目標は、与えられたマニュアルを覚えて、それを高速に正確に再現する力。まさに定型業務処理能力というものが生きる力そのものだった、工業社会においては。そういう人材が、いわゆる生産性の高い工場の工場労働者として好まれ、ミスをしないう人材を多く抱える、不良品の少ない工場がパフォーマンスを上げ、そういう工場を多く持っている会社、産業がまさに世界でジャパン・アズ・ナンバーワンになった。しかしながら、21世紀に入り、大量生産・消費の普及は、その裏側で、大量のエネルギー消費、CO₂排出、大量の廃棄物問題を深刻化させた。そういうなかで、人工物を大量に生産することよりも、あまたの社会課題を解決する知を創造することに価値がシフトしてきている。

OECD教育2030とG7教育大臣会合

こうした社会の劇的な変化を踏まえて、21世紀の教育の目的、コンピテンシーを再定義するため、2015年にOECDに教育2030プロジェクトが設置され、日本は当初から参画し、筆者も運営委員会理事を拝命している。

その2年目にあたる2016年には、OECDとユネスコも参加して倉敷でG7教育大臣会合が開催されたが、筆者も議長代行としてとりまとめた倉敷宣言においても、「予測困難な変化の激しい世界を生きる次世代が、自らが将来を作り出すことができるようにすべきとの認識のもと、与えられた課題に効率的に回答する力にとどまらず、自ら新たな問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくための力を身に付けていく必要があることを我々は認識する」との文言が盛り込まれ、21世紀型教育の目標が明記された。

OECD教育2030プロジェクトも3年を経て、第1期が終了し、先般、筆者もその策定にかかわったが、中間的な概要報告（以下、中間報告）が公表され

た。OECD教育2030の中間報告では、まず、教育目標としては、「個人のウェルビーイングと社会のウェルビーイング」を掲げた。また、「若者を教育するのは、働くための準備をすることだけが目的ではなく、前向きで、責任ある行動をとることができる、積極的に社会参画することができる市民となっていくため」と強調した。

教育による獲得すべき能力として、「目的のはっきりした目標を立てるように学ぶこと、異なる考え方を持った人々と協働すること、まだ利用されていない機会を見つけること、重大な課題に対する複数の解決策を把握することなどが不可欠な能力となる」としたうえで、特に、複雑で不確かな世界を歩んでいく力として、「学習者のエージェンシー（自律性）」を重視した。

学習者のエージェンシーの発揮を可能にするための要素として、「①生徒一人一人が自分の情熱を燃やし、別々の学習経験や機会をつなげて考えるようになり、他者と協働しながら自分自身の学習プロジェクトや学習過程を計画することを支援したり、そうする動機づけを与えたりするような、一人一人にカスタマイズされた学習環境であり、②しっかりとした

基礎力、特に、読解力、数学力、デジタル情報やデータを使いこなす力も不可欠なものとなっている」としている。

ラーニング・フレームワーク

今般、OECD教育2030は、「学びの羅針盤」を作り上げた。新しい知識が創出される要素として、学問は当然大事だが、学問分野を超えて考え、「点をつなぐ」能力も重要である。手続きの知識とは、「物事がどのように行われたり作られるのかを理解したりすることによって獲得されるものであり、目的を達成するためにとられるべき連続したステップや行為のこと」であるが、これも実践的な問題解決を通して育成される。獲得した知識は、未知な状況や変転する状況において適用されるが、認知スキルやメタ認知スキル（例えば、批判的思考力、創造的思考力、学び方を学ぶ、自己調整）、社会的及び情意的スキル（例えば、共感、自己効力感、協働性）、実用的及び身体的スキル（例えば、新たなICT機器の利用）を含めた幅広いスキルが求められる、としている。

教育2030プロジェクトでは、「変

革を起こす力のあるコンピテンシー」として以下の3つを特定した。

- ① 新たな価値を創造する力 (Creating new values) 、
- ② 対立やジレンマを克服する力 (Reconciling with tensions & dilemmas) 、
- ③ 責任ある行動をとる力 (Taking responsibilities) 。

特徴的なのは、対立やジレンマを克服する力を盛り込んだことである。格差によって特徴づけられる世界においては、多様な考え方や利害を調停していく緊急性が必須であり、そのためには若い世代が、例えば公平と自由、自治と集団、イノベーションと継続、効率性と民主的プロセスといった対立軸のバランスをとるなど、対立やジレンマ、トレード・オフの扱いに熟達することが求められる。その際、二者択一での選択や単一の解決策につながることは稀であり、より総合的に考える必要がある。相互依存や紛争が生じている世界では、他者のニーズや欲望を理解する力をつけるほかない。将来に備えていくためには、矛盾した考えや相容れない考えや論理、立場についても、それらの相互のつながりや関連性を考慮しながら、短期的な視点と長期的な視点

の両方を踏まえて、より統合的な形で考え行動していくことを学習する必要がある、としている。

「板挟み」と「想定外」と向きあう力をはぐくむ

今回のわが国の教育改革は、上記のOECDの議論と連動して行われている。AIとVUCA、SDGの時代における教育の在り方を再考し、筆者らは、「板挟み」と「想定外」と自発的・積極的に向き合える力を育成することをベースに議論してきた。

今回の教育改革を構想するにあたり、筆者らが参考にしてきたのが、釜石での防災教育だ。東日本大震災のとき、岩手県釜石市内の小学生、中学生の99・8%が生き残った。その理由の一つが、2004年から7年間、当時群馬大学の片田敏孝教授（現在 東京大学情報学環特任教授）が、「想定外を生きる力」というコンセプトで7年間、子どもたちに行ってきた防災教育である。そのエッセンスである、①想定にとらわれるな、②その状況下において最善を尽くせ、③率先避難者たれ、の3つを修得した結果、児童・生徒たちは想定外対応能力を獲得するこ

とできたことである。

20世紀の日本の教育では、「マニュアルを覚えろ」「ミスを減らせ」「指示するまで動くな」ということを教えてきた。この逆のことを21世紀には行わなければならない。

VUCAの時代の到来によって、様々な想定外と日々直面することとなる、それとともに、見逃せないのがグローバル化である。すでに農業でも製造業でも建設の現場でも、グローバル化は進んでいて、価値観が多様な人たちが、共存・共栄・共生していかなければいけないが、そのことは、日々、様々な板挟みと直面することを意味する。

要するに、21世紀に必要な人材育成とは、想定外、板挟みと向き合い、乗り越えられる人材、AIを使いこなし、AIで解けない課題に向き合える創造的、協働的な人材の輩出であり、そのための教育がアクティブ・ラーニング（主体的で対話的な深い学び）である。

そして、アクティブ・ラーニングのなかでも、最大の方法の1つが、プロジェクト・ベースト・ラーニング（PBL課題解決型探究学習）である。一旦、プロジェクトを始めれば、ただちに、時間がない、お金がない、人が足りないとい

う問題に直面する。あるいは部活や親との板挟みなど様々な板挟みを経験する。

学校の課題活動・特別活動・クラブ活動などは、元々、PBLの要素を持っていた。また、国際バカロレア認定校では、すでにアクティブ・ラーニング・探究が行われていたが、2011年度からSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）が始まり、2018年度で204校が指定（57校が指定終了）され、理数における探究活動・授業が精力的に行われてきた。また、2014年度からSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）が始まり、2014年度56校、2016年度123校、アソシエイトが当初54校、2016年度56校が指定されているが、PBLの先進事例ともいえるSSH、SGHの成果を受けて、今回の学習指導要領の改訂により、新たに「理数探究」と「総合探究」が導入され、PBLの中核を担うこととなる。

また、高校の社会科に「公共」「歴史総合」「地理総合」が導入されるが、暗記科目の代名詞であった「社会科」を、板挟みを考える科目に変えていく。歴史をひも解けば、板挟みのなかで苦闘した先人、先哲がいる、あるいは、世界に目を転ずれば、大変な板挟みのなかで頑張っ

ている子ども・若者たちが大勢いることにすぐ気づく。こうした人々のことを学ぶことで、勇気や知恵をもらうことができる。

PBLをめぐるのは、民間非営利教育において、すでにいくつかの先導的な実践が始まっている。認定NPO法人カタリバ（2001年設立）が事務局を務め、全国高校生マイ・プロジェクト・アワードが2013年から始まっている。2018年度には、約900プロジェクト、6000名ほどが参加している。マイプロジェクトは、高校生が地域や身の回りの課題や気になることをジブンゴト（自分事）としてとらえ、テーマごとにプロジェクトを立ち上げ、実行することを通じて学ぶ課題解決型学習（PBL）だ。マイプロジェクトでは、プロジェクトのテーマ設定に対する「主体性」と、たとえ小さくても実際に「アクションを起こす」ことを重視して行われている。

PBLを教育の中軸にすえた公立高校もいくつかできつつある。その火付け役は2008年から始まった島根県立隠岐島前高等学校を中心に始まった隠岐島前教育魅力化プロジェクト（一般財団法人島前ふるさと魅力化財団）である。同プロジェクトは、学校・行政・地域住民が

協働し、日本各地から意志ある入学者を募る「島留学」制度や、地域住民が島留学生の支援をする「島親」制度、山積する地域課題にチームで協働的に取り組む課題解決型の探究学習の構築、学校・地域連携型公立塾「隠岐国学習センター」の設立など様々な取り組みを行った結果、2008年で89名まで落ち込んだ隠岐島前高等学校全生徒数は、2017年には、184名までV字回復している。この成功を受けて20を超える高校と地域が魅力化プロジェクトを始めている。

東日本大震災からの復興をめざして、福島県立ふたば未来学園高等学校が2015年に創立された。同校は、開学当初から、「自らを変革し、地域を変革し、社会を変革する「変革者たれ」との建学の精神のもと未来創造型教育を掲げ、「未来創造探究」という学校設置科目を中心にPBLを行っている。原子力防災、再生可能エネルギーなどの課題を、演劇なども使って表現するなどの学習が成果を収めている。

2015年に創設されたNPO法人青春基地も、学校と連携してPBL活動のサポートと普及に力を入れている。

さらに、グローバルなPBLの動きも本格化している。

その先駆けは、OECD東北スクールである。2011年3月11日の東日本大震災を受け、同年4月、OECD事務総長が来日し、復興教育プロジェクト「OECD東北スクール」（文部科学省復興教育支援委託事業、福島大学事務局）が生まれた。福島、宮城、岩手の被災地から中学生・高校生約100人を集め、2年半にわたる集中スクールと地域スクールを経て、「2014年8月、パリで東北の魅力を世界にアピールするイベントをつくる」というプロジェクト（パリ・シャンドマルス公園に15万人が来場）を大成功させた。

この成果を日本中に展開するため、2015年にOECD日本イノベーション教育ネットワーク（ISN）が結成された。東京大学と福島大学が事務局を務め、和歌山、広島、福井、東北、隠岐島前、高専などのクラスターで、海外とのPBLが行われ、大きな成果を上げた。また、高校生主導による、生徒国際イノベーションフォーラム（ISIF）が2017年8月、東京で開催され、9か国、200名を超える高校生・教員らが参加し、成功裡に終了した。こうしたISN1・0の成果を受け、2018年4月からISN2・0が始まっている。

ISNと連携・協働してきた広島県により、2019年4月には、広島県立広島観智学園中学校・高等学校が、全寮制中高一貫教育校として創立された。同校では、Global PBLを行う「未来創造科」という科目も設置し、国際バカロレアにも沿ったカリキュラムを導入している。

「21世紀型教育の普及」今後の課題

様々な条件が整っていくなかで、21世紀型教育を普及するために残っている課題は、小中高を通じて教員と保護者のマインドセットを21世紀型教育に変えることと、PBLを指導できる中学・高校段階での教員の能力の向上とそうした能力を持った教員（サポートできる地域人材含む）の確保と増員である。

教科別に分化している中学校の教員は、柔軟性、相互関連性、関与において、改善すべき課題を抱えていると思われる。筆者も、各県の研修などと呼ばれて「21世紀型の教育」について、教職員向けの講演などを頻繁に行っているが、長野県教育委員会は熱心で、2017年度から信州PBL会議を立ち上げ、県下の高校の校長・教員に対して、研修やPBL導

入のサポート、好事例の共有などを行っている。

人員の確保については、大学の修士・博士課程の学生の活用、つまり、数理探究や総合探究の高校生への指導を在学中に一定程度行った場合には、高校教諭などの特別免許状の交付を制度化することが検討されている。また、これまで中学校が主流であった、コミュニティ・スクールの指定が、公立高校にも次第に広がりがつつある、こうした流れは、高校におけるPBLをサポートしてくれる地域人材の確保にプラスになる。

大学の授業の改革も重要である。せっかく高校でPBLを学んだとしても、大学に入って、それが加速・洗練・進化されなければ意味がない。大学が、あいかわらずの大教室で一方向一斉講義型の授業だけを行っていたのでは、PBLはほぼつかない。特に、大学1年生、2年生の段階での、研究室やゼミに入って、PBL型の学びができる大学・学部は依然少数にとどまっている。これを改善するためには、学生・教員比率を改善するための人員増のための予算・歳入の確保と大学1年、2年のカリキュラム改革も必要となる。加えて、PBLでは、実社会の方々から具体的な課題を提示していた

だき、それに対する実際の解決策を、文系理系学生が混合でチームを考案し実践するようなプログラムも導入していくことが望ましい。

こうした課題を乗り越えながら、いよいよ、21世紀型教育の実践が各地で始まっていく。大いに期待していきたい。

（2018年11月21日・公開フォーラム）

筆者略歴（すずき ひろし）

東京大学教授、慶應義塾大学教授、文部科学大臣補佐官、日本サッカー協会理事、社会創発塾塾長、元文部科学副大臣。

著書に『熟議のススメ』（講談社）、『テレビが政治をダメにした』（双葉新書）、『熟議』で日本の教育を変える』（小学館）、『コンクリートから子どもたちへ』（共著、講談社）、『研究開発力強化法』（共著、科学新聞社）、『先生復活——にっぽんの先生を再生する』（アルク）、他多数。

公開講演会記録

シルクロード最大の謎
「楼蘭」

東京藝術大学特任教授、元NHK新シルクロード・プロデューサー 井上隆史

謎の王国・楼蘭

タクラマカン砂漠は、日本列島の面積の90%もある巨大な砂漠だ。それがユーラシア大陸のど真ん中にあるのだから、ちよつと日本的な間尺を変えないと理解できないかもしれない。

中国の北京から西に向かう飛行機で、シルクロードの拠点都市である新疆ウイグル自治区のウルムチに向かうとき、窓から見える風景を表現するとすれば「凄まじい」のひとつとしかかない。4時間近くのフライトの間、目に飛び込んでくるのは、薄茶色の乾燥した大地ばかりなのである。ときどき集落やオアシスのような町が見えてくるが、人口密度という点

で見ると極端な「疎」であろう。世界のいろいろな地域を旅しているが、これほど人気（ひとけ）のない路線はない。しかし、考えてみると、飛行航路はタクラマカン砂漠の縁をかすめているだけで、本当の大砂漠は見えていないのだ。

この枯れた大地の、まだその向こうに、広大なタクラマカン砂漠が広がっているのだから、呆れるばかりだ。

何度かシルクロードに通ううちに、ふと思うようになった。昔からシルクロードは、こんなに砂漠ばかりだったのだろうか。シルクロードの古代環境は、今と同じだったのだろうか。それとも、今からはまったく想像のつかない姿だったのか。張騫が月氏に使いしたとき、玄奘三蔵が経典を求めてインドに向かったと



【楼蘭故城】



き、シルクロードはどんな表情で彼らを迎えたのか……。

タクラマカン砂漠の砂の海に佇む「楼蘭古城」は、20世紀の初めスウェーデンの探検家スヴェン・ヘディンと、イギリスのスタイン隊によってほぼ同じ時期に発見されたといわれている。

「幻の王国・楼蘭」の都の跡だとの説もあり、その発見以来多くの人を惹きつけてやまない。

小河墓遺跡の王宮

その楼蘭古城から西におよそ170キロメートルの地に、「今世紀最大の発見」として話題になったタクラマカン砂漠の遺跡がある。私たちが制作したNHKスペシャル「新シルクロード」でも放送したので、ご存じの向きも多いかと思う。

この「楼蘭・小河墓」の発掘は、今世紀に入ってから予備調査が行われ、大きな成果を上げている。数体の保存状態のいいミイラや、その傍らに埋葬された等身大の「木のミイラ」、舟形の木棺、胡楊の木で作った人間の形をしたトーマボールのような柱などなど、これまでこの砂漠のなかの、そしてシルクロードのどんな遺跡からも発見されたことのない

貴重な出土品が見つかっている。それも、時代はおよそ3千年から4千年前と推定されている。もしかしたら彼らは、このタクラマカン砂漠にはじめて住みつき、古代文明を育んだ人々かもしれないのだ。

発見されたミイラは、すべてコーカソイド、いわゆる白人種である。彫りの深い顔立ち、亜麻色の髪の毛、白い肌……。正確なDNA鑑定はまだ行われていないが、黒海もしくは地中海沿岸をその源とするヨーロッパ人種であると推定されている。

小河墓は、かつてシルクロードに栄えた楼蘭王国の領域内にある。しかし、時代は1千年以上も遡る。楼蘭王国を創った人々と小河墓に眠るミイラたちの間には関係があるのか、それともまったく断絶しているのか、調査がはじまったばかりの今の時点では、何ともいえないが、ミイラや出土品のDNA鑑定などの結果がそろった暁には、そのあたりも明確になるはずだ。

ともあれ、今の時点では、楼蘭王国の「楼蘭人」に対して、仮に彼ら小河墓に眠る人たちを「古楼蘭人」と呼んでおきたい。何よりその言葉の響きがいい。

2004年に小河墓の発掘隊長をつと

める新疆ウイグル自治区文物考古研究所のイディリス・アブドゥラッスル所長にウルムチで会ったとき、彼は、この「小河墓」には千に近いミイラが眠っていると聞いた。

「小河墓では予備調査で、すでに4基の棺が見つかっている。少なくとも、あとまだ996基残っている。ゆっくりやるさ。シルクロード最大の発掘となるかもしれないからね」と笑いながら話すイディリス所長の自信にあふれた笑顔が忘れられない。

実は「小河墓」は新しい発見ではない。1934年にシルクロード探検の先駆者であるスウェーデン人スヴェン・ヘディンの直弟子フォルケ・ベリイマンが遺跡を見つけ、4体のミイラを掘り出しているのだ。

スウェーデンに残るベリイマンの記録からわかる発見のいきさつは次のようだった。

あるとき、ベリイマンは、ガイドのウイグル人エルデクから、砂漠のなかの不思議な遺跡の話聞いた。エルデクはヘディンが楼蘭王国の遺跡を見つけたとき、案内役として同行したウイグル人の長老である。ヘディンの信頼は厚く、地元の地理やウイグルの言い伝えに人一倍詳しく

かった。

エルデクが話す不思議な墓の存在にベリイマンは勇みたった。

「その不思議な墓に行ってみよう」。

しかしエルデクは、とんでもないと首を振る。

「あそこには魔物が棲んでいる。行った者は呪いを受けて2度と帰って来られない」。

結局、ベリイマンは嫌がるエルデクを何とか説き伏せ、2人で不思議な墓を目指すことになり、カヌーで川に乗り出した。今は乾いた河床をあらわにしている小河も、当時は豊かな水の流れを誇っていたのだ。

砂漠をさまようこと1か月、ベリイマンとエルデクの2人は砂漠を縫って流れる1本の河をカヌーで下っていき、ついにその遺跡を見つけた。

ヘディンは、分遣隊として派遣したベリイマンの報告を聞き、ベリイマンとエルデクが砂漠のなかに見つけた集団墓地を「エルデクのネクロポール（死者の町）」と名づけている。

ベリイマンの報告を受けたヘディンは、この遺跡に大きな関心を寄せた。それは、前掲の記述からも明らかだ。ヘディンは特別の許可を得て、この集

団墓地からの出土品をスウェーデンに持ち帰っている。

しかし時節は風雲急を告げていた。

ヘディンが『さまよえる湖』と題した探検行の記録を出版した1937年、廬溝橋の1発の銃声ではじまった日中の泥沼の戦いは拡大の一途をたどっていく。同じころヨーロッパではナチスドイツが勢力を増しポーランドに侵攻、第2次世界大戦への道を突き進んでいた。

そして何年にも及ぶ戦いと新中国の成立やその後の混乱のなかで、シルクロードの何もない砂漠のなかにたえず「不思議な墓」のことは、いつしか人々に忘れられていったのである。

今のような衛星写真もなかったし、わざわざ砂漠を飛ぶ飛行機も少なかったに



【小河墓遺跡を遠望する】

違いない。タクラマカン砂漠は日本の面積の90%の広さを持つことは冒頭にも書いたが、ほとんど目印らしい目印もない広大な砂漠で、1つの遺跡が「行方不明になる」ことは決して珍しいことではないだろう。

「小河墓」の再発見は2000年の12月のことだった。石油探査のためにタクラマカン砂漠に足を踏み入れた人たちが、偶然発見して文物局に連絡したのだ。

こうして、長く忘れられた存在となっていた遺跡が、再び脚光を浴びることになったのである。

白人だった「楼蘭の美女」

1980年に放送された「シルクロード」で一躍脚光を浴びた「楼蘭の美女」をご存じだろう。発見されたときは楼蘭王国の時代に生きた女性と思われるが、のちの調査で紀元前1800年ころに生きた人だと修正された。そして人種もコーカソイドだというのだ。楼蘭の美女は白人だったのである。

ベリイマンの調査でも、再発見後の予備調査でも、見つかったミイラの容貌は、どう見ても、最初の「シルクロード取材」で見つかったあの「楼蘭の美女」と同じ

く、コーカソイド系、つまり白人の特徴を示している。新しい遺跡の発見が、「共産党的解説」を抜きにストレートに伝われば、くすぶりはじめていた新疆ウイグル自治区の民族運動の引き金になることは十分に考えられた。

このとき、私の目の前に浮かび上がった謎の墓は、砂漠の蜃気楼のように消えてしまった。しかし、このとき以来「小河墓」のことは、私の頭から離れなかったのである。

「楼蘭」といえば、敦煌と並ぶシルクロードの代名詞だ。井上靖の小説『楼蘭』の影響か、次々とロマンチックなイメージが湧き上がってくる。

しかし、かつての楼蘭王国の領域に含まれるとはいえ「小河墓」といわれてもピンとこない人が多いに違いない。

半世紀以上発掘が手つかずだったこともあり、これまでに一般にはほとんど知られていない遺跡だ。しかし、今世紀になってはじまった「小河墓」の発掘は、シルクロード研究にとって、きわめて大きな意味を持つ。

それはここに眠る人たちが、もしかしたら、ユーラシア大陸の西から何千キロメートルもの道をたどって、タクラマカン砂漠にやってきた最初の住民かもしれないから

なのだ。それも4千年もの昔に――。

「彼らはいったい何者なのか？」

「どこから、やってきたのか？」

「そのとき、ここは砂漠だったのか？」

「それとも、今とは比べものにならないほど豊かな水と緑に恵まれたオアシスだったのか？」。……

次々と謎が浮かんできく。そして最大の謎は、「小河墓」に眠る人々は、のちの楼蘭王国の人たちと、どんな関係にあるのか……？

謎に満ちた楼蘭王国の実像を解き明かすためにも、「小河遺跡」の発掘調査は大きな期待を集めている。シルクロード最大の謎を解くキー・ストーンがここに埋まっているかもしれないのだ。

ついに「小河墓発掘」撮影に成功

発掘調査は2003年末から2005年春まで2度にわたって行われることになった。粘り強い交渉の末、われわれの中国人スタッフが調査団の一員になって、現地に入ることが許された。

結局、小河遺跡発掘の一部始終は、私たちが預けたハイビジョンカメラで、NHKが契約した中国人カメラマン毛継東



【小河墓に林立する墓標】

君が克明に記録してくれたのだが、残念ながら外国人の私たちが発掘現場に立ちあうことは、最後まで難しかった。「中国の考古学調査は中国人の手で……」。

経済成長と一種のナショナリズムの高揚のせいもあってか、このところ中国各地で行われている考古学調査の主導権は中国の学者にゆだねられるようになってきた。これもまた、今という時代を反映している。

欧米列強が壁画を剥ぎ取り、ミイラを本国に運び去っていく時代は、とうの昔に終わっていた。

中国の調査隊による小河墓の発掘は素晴らしい成果を上げた。

「すごい遺跡です。ミイラが次々と見つかっています」。

衛星電話を使って、報告をしにくるカメラマンの毛君の声は興奮から上ずっていた。

当然のことながら、撮影された映像は強烈なインパクトがあった。何しろ、その「不思議な墓」からは、期待に違わず、ほぼ完全に保存された4千年近く前の白人ミイラが次々と見つかったのだから……。

その埋葬様式も独特のものであった。

砂の上に直接遺体を置き、胡楊の木で造った舟形の棺を、伏せたように被せていた。その上を、血の滴る剥いだばかりの牡牛の生皮で覆う。「血糊」——まさに血が糊になって棺は密封されていた。

死者の枕辺にはそれぞれ墓標のようなものが立っている。

女性の棺の前に立てられた柱状の墓標は、高さが1メートル50センチから1メートル80センチで、形状はさまざまである。先端はどれも赤く塗られ、毛糸がぐるぐると巻きつけられている。

男性が眠る棺の頭部に立てられているのは軍配のような墓標だ。ほとんどはげ落ちていたが黒い塗料が残っているのが確認できる。

この軍配状と柱状の墓標はいったい何

を意味しているのか？

研究者によると軍配のような墓標は女性性器を、柱状の立木は男性性器をそれぞれ象徴しているのだという。つまり、男性ミイラには女性性器を模した軍配のような墓標、女性ミイラの頭の部分にはポール型の墓標がセットになって、立てられているのだ。

小河墓地がつくられた時代、人々は生殖崇拜の観念を持ち、多産を願ってこのような埋葬形式を取ったのではないかと研究者は考えているようだ。

墓標や棺、立木のように屹立する柱は砂漠に多い胡楊の木でできていた。その頂には牛の頭がくりつけられていた。

* 映像を見た専門家が、この牛は頭骨の形から見て、インダスの牛ではないかと意見をいつてきたが、これは今後のDNA鑑定などの調査報告を待たなければならない。

確実にいえることは、こんな埋葬様式は、シルクロードのどこでもまだ見つからないいきわめて珍しい様式だということだ。

見つかった「美女」ミイラ

小河墓発掘の白眉は、何といっても



【発掘されたばかりの小河美女】

「新楼蘭の美女」とも呼ばれた「小河美女Ⅱ M11」の発見だ。棺を覆う牛の皮をはぎ取り、船の底板に当てる蓋を

外したとき、そこには今にも息を吹き返して起き上がってくるようにさえ思える人形のような美女ミイラが眠っていた。

20代と見える若い女性だった。フェルトの帽子を深くかぶり、亜麻色の長い髪、彫りの深い貌、高



【鑑定調査中のM11＝小河美女】

い鼻梁、薄い唇……うっすらと死に化粧が施され、目にはつけ睫毛かと思われるほどの長いまつげが残っていた。DNA鑑定を待つまでもなく、その容貌は明らかにコーカソイド、つまり白人系であることを示していた。

「小河美女ⅡM11」の美女ミイラは発掘が終わって行われたDNA鑑定によって、時代は「楼蘭の美女」とほぼ同じ時代と判定された。

このM11をはじめ、小河墓ではかなりの数のミイラが良好な保存状態で見つかっている。砂の他にも何か特別な保存方法が講じられていたのかもしれない。

小河墓のミイラは中国最古だった

調査で出土したミイラは、全部で145体。いずれも「ミイラⅡ干屍」であり、エジプトのミイラのように、人為的処理をくわえてつくられたものではなく、自然に乾燥したものである。内訳は男性54体、女性79体、性別不明12体。そのなかに子どものミイラが19体あったという。

南区の墓葬は、時代順に5層に分かれていることが判明した。一番表層の第1層からは13基、その下の第2層から27基、第3層から23基が発見された。炭素14の

崩壊による年代測定の結果、1〜3層の絶対年代は紀元前1450〜1700年と分かった。

第3層の下は約1メートルの砂が堆積し、その下に第4層があり、38基の墓葬が発見された。さらにその下には最下層の第5層があり、やはり38基の墓葬が確認された。これを炭素14により年代測定すると、紀元前1700年から2000年であることが判明したという。

これまで中国で発見された最古のミイラは「楼蘭の美女」だといわれていた。「楼蘭の美女」は紀元前1800年とされているので、小河墓の最下層から出土したミイラは中国最古のミイラである可能性が出てきた。

彼らは、タクラマカン砂漠に最初の文明をもたらした人たちかもしれない。彼らはどこからやってきたのか。どんな社会を築いていたのか。小河墓の発掘によって、シルクロードの大きな謎が、またひとつ浮かび上がってきた。

小河墓遺跡や鉄板河遺跡など、楼蘭周辺で見つかった「古楼蘭人」のミイラとその遺物、遺跡の研究によって、おそらくはこれまでの常識を覆すほど、大規模でダイナミックなユーラシアの民族移動の姿が浮かび上がってくるはずだ。

小河墓への旅

発掘が終了して約1か月後の2005年4月、私が客員教授をやっていた日本の総合地球環境学研究所と新疆文物局との間で共同研究をはじめることになり、日本人研究者とともに、小河墓視察を認めるとの連絡があった。

小河墓行きは、4年越しの念願だった。「一度は現地を見てみたい」という思いが人一倍強かったのも事実であり、そのことを新疆側はよく知っていた。その思いがやっと通じたのか、新疆からの突然の小河墓行き招待だった。

発掘が終わったので、今度は小河墓の公開に向けての準備をはじめた。私たちが、その最初のゲストだという。こうして「貴重な文化遺産」は、「貴重な観光資源」に変わっていく。中国らしい切り替え方だ。

やっと巡ってきたチャンスを逃す手はない。そこでゴールデンウィークの休暇を利用して、小河墓への旅に参加することにした。同行したのは京都の総合地球環境学研究所の佐藤洋一郎教授、岡山大学農学部に加藤鎌司助教授、いずれもDNA考古学や植物学の専門家だ。案内は

イディリス新疆文物考古研究所長と新疆文物局の李軍副局長、通訳の劉豆君というメンバーだった。

4月の終わり、私たちは小河墓遺跡に向かつて、砂漠のなかを走っていた。小河墓遺跡は幹線道路から36キロメートルも砂漠のなかを走って行かなければならない。砂地にしっかりと根を下ろし、緑の枝をいっぱいに広げた胡楊の林が切れると、タマリスクコーンの奇妙な風景が続く。タマリスクは砂漠に強い、丈の低い植物で小さな叢になる。枯れたあとでも、深く下ろした根の周りに砂が吹き溜まり、小さな丘を造る。これをタマリスクコーンと呼ぶ。枯れた枝や根っこが、まるで前衛の華道家がつくったオブジェのように、不気味な姿を晒している。農民たちはこの枯れたタマリスクの枝や根を採って薪にするのだが、そのときに偶然遺跡や遺物を掘り当てることもあるという。

砂の海を3時間も走ると、やがて砂だけの世界になってきた。風の吹き来る方向を背に、クロワッサンのような形の大きな砂紋が続いている風景は壮観だ。ヘリで上空から撮影した映像を見ると、まるで巨大な魚の鱗のようにも思えた。まさに、風と砂の芸術だ。



【遺跡の手前で砂に埋まったトラック】

しかし、「暑い」……。

4月だというのに、手元の温度計を見ると、優に30度を超えている。もう1か月もすると、地表温度は40度にも50度にもなるといふ。夏の盛りに砂漠に入るのは無謀というものだろう。

砂漠用のベンツ製のトラックは何度も砂に車輪が埋もれ動けなくなった。1台が砂に捕まるともう1台がワイヤーで引くのだ。常に2台以上のトラックで行動しないと、灼熱の砂漠の真ん中で立ち往生という羽目になる。

砂漠の太陽が西に傾きはじめ、砂のエッジの描く影が長くなりはじめたころ、前方に小河墓が見えてきた。胡楊の柱が林のように立つ姿は変わらないが、発掘が終わった小河墓は、砂の丘が削られ、映像で見たより低く、小さくなっていた。遺跡の周辺を取り巻くように、数キロにわたって、鉄条網が見える。まだ一部では作業員が集まって、鉄条網を張る作業が続いていた。

こうして鉄条網で遺跡を囲んだあと、盗掘で遺跡が荒らされないように、2人の監視員が常駐するという。自家発電でクーラーも動くのだが、60度近くにまでなるという灼熱の砂漠の真ん中で男2人きりで過ごす夏は、さぞや過酷な日々となることであろう。

われわれの宿舎は、砂漠のなかを運んできたバスを改造した臨時の「小河賓館」だった。数組の2段ベッドが置かれていて、全員がここで寝るのだという。それぞれに割り当てられたベッドに荷物を置いて、まずは小河墓に向かった。

青空に聳える胡楊の柱は、やはり異様だ。低い丘を登ると一面に並ぶ棺が見える。5層になっていた集団墓地を掘り進み、最下層だけを残したのだという。枕元に丸い柱の墓標や、軍配のような

墓標を立てて、舟形の棺が並ぶ様は、まるで砂の海を押し進む船団のようにも見える。舳先はどれも、風の吹きくる北東に向かっている。

傾いた太陽から届く斜光が胡楊の影を長く砂地に伸ばしている。

感動的だった。

映像を見るだけではわからない、五感に訴えてくる「何か」が現場にはある。西の地平線に沈みはじめた太陽の柔らかな光。乾いた砂の手触り。夕方になって急に冷え込んだ大気が肌を掃く。遠くから響く自家発電機の大自然には不似合いな音に、隊員たちが可愛がっているシェパード犬の低く唸る声が重なる。

小河墓の上から周囲を眺めてみた。見渡す限りの砂の海だ。そのなかに林立する胡楊の柱は、やはり異様に見える。

小河墓の棺を1つ造るのに3本の胡楊の大木が必要だとイディリス所長が教えてくれた。その胡楊はどこから運ばれてきたのか？これだけの棺と柱と墓標を造るには、かなりの本数の胡楊が必要だったはずだ。

小河墓が造られた時代、この辺り一帯の環境は、今とは大きく異なっていたに違いない。豊かな水量を湛えた河が流れ、胡楊の林が生い茂るオアシス。そのなか

に島のように浮かぶ小河墓の往時の姿が脳裏に浮かんた。

集団墓地の墓標や棺の表面はみごとに削り上げられている。柱には「ほぞ」のような切り込みもされていて、鋭利な道具が使われたことがわかる。青銅器を使ったのか、すでに鉄器を知っていたのか。しかし、不思議なことに、この集団墓地からは、金属器はひとつも発見されていない。ただ小さなコインのような形の青銅が、シャーマンではないかと推定された老女のミイラの衣装に縫い込まれていたことから、彼らが「青銅文化」を知っていたことは証明されている。

この小河墓は、祭祀と一族の永遠の眠りの場所であって、この近くには生活の場は見つかっていないという。彼らが生活を営んだ集落は、ここから離れたところにあったに違いない。

もしかしたら、舟で小河の流れに乗って、ここに、死者を埋葬しにやってきたのかもしれない。

小麦のDNAが語る

太陽が砂漠に沈み、あたり一帯が暗くなると、東の地平線から、十六夜の月が昇ってきた。ちょっと歪んだような顔の



【小麦の入った草編みの籠】

月は、満月より愛嬌がある。たった一晩だけ許された砂漠の夜に、小河墓の柱に懸かる明るい月が情感を与えてくれる。残念なのは、月明かりのおかげで、降るような星空が見えないことだが……。少し青みを帯びた月の光は、私たちを太古の昔に誘ってくれるようだ。

夕食のあと、同行の新疆文物考古研究所のイディリス所長に発掘の成果を聞いた。盗掘され、砂上に放置されていた棺も含めて、357基の墓が確認できたという。地元ウイグル人たちが呼びならわしていた「千の棺の眠る墓」とまではいかないが、こうした集団墓地で、ほぼ完全な形で大量のミイラが見つかるのは、世界でもほとんど例がないとイディリス所長は強調した。

膨大な数のミイラの発掘だけでも世界的ニュースである。しかし、小河墓で発見されたのはミイラだけではない。実は私たちの小河墓行きの最大の目的は、ミイラと一緒に見つかった「もの」にあった。

棺に納められていたミイラは、必ず傍らに小さな草編みの「籠」を携えていた。籠のなかには穀物の種が入っていた。小麦である。

小麦は種籾の状態だった。それも映像で見るかぎり、保存状態はきわめて良好である。炭化もしていなかった。こんな乾燥地ではほぼ完璧な状態で保存されていることに、今回同行した佐藤教授たち専門家も驚いていた。はじめて映像を見せたとき、彼らは一様に歓喜の声を上げた。「この状態なら小麦のDNAが、確実に抽出できますよ」。

じつはこの小麦、中国で見つかった最古のものである可能性があるのだ。

DNA鑑定に成功すれば、この小麦の系譜と伝播ルートの解明、さらには、灌漑農法でつくられたものか、天水だけを使っていたのか、といったことまで解明できるという。

小麦のふるさとトルコのアナトリアである。小麦はやがてチグリス・ユーフ

ラテス河の畔^{ほとり}に運ばれ、人類最古といわれる「メソポタミア文明」を生んだ。

そして西のヨーロッパ、東の中国へと広がっていく。小麦伝播の道「小麦ロード」のミッシングリングがつながるかもしれないのだ。

しかし、4千年近く前の小麦が、この状態で残ること自体、奇跡的だともいえる。きつと、タクラマカンの砂に何か秘密が隠されているに違いないとさえ思えた。

楼蘭・空白の千年

タクラマカン砂漠には、まだまだ多くの「謎」が眠っている。その謎のなかで最大のものが「楼蘭の謎」だという。

小河墓の調査は、この集団墓地がつくられてから、1千年以上経って、歴史のなかに忽然と現れた謎の王国「楼蘭」の住人、いわゆる「楼蘭人」の出自や民族を解明する重要な手がかりとなるかもしれない。小河墓や楼蘭故城の近く鉄板河遺跡で発見されたいわゆる「楼蘭の美女」などのミイラの年代は、年代測定によると紀元前1500年〜2000年ころとみられている。

一方、楼蘭王国が史書に登場するのは

紀元前2世紀である。楼蘭王国がいつ成立したかについては明らかではないが、どんなに遡っても数百年だろう。小河墓遺跡の時代と楼蘭王国の間には1千年以上のタイムラグがあるのだ。

この1千年の間、楼蘭一帯には誰も住んでいなかったのか？ それならば「古楼蘭人」はいつ、どこに消えたのか？

楼蘭で見つかった焼土層は、何か大きな事件があったことを物語っているように思えた。

探れば探るほど謎が深まる——それが楼蘭の魅力でもある。

(2019年1月24日・公開フォーラム)

筆者略歴(いのうえ たかし)

1952年7月26日生まれ。香川県丸亀市出身。「歴史への招待」などのディレクターとして主に歴史番組を担当。プロデューサーとして文明・歴史・美術に関連するNHKスペシャルなどの特集番組、大型シリーズ番組の制作に携わってきた。代表作「大黄河」「大モンゴル」「中国12億人の改革開放」「家族の肖像」「四大文明」「新シルクロード」など。

引揚者となる人たちと歌の場面

―外地居留時、抑留時、避難時、引揚船内で、そして戦後日本社会で

そのとき歌い、そのとき聴いた〈そのⅡ〉

藤川琢馬（会員）

6. 朝鮮人養父母に育てられた満洲孤児

終戦当時小学校6年生だった満洲孤児・竹川（養子先の姓）英幸さんは朝鮮人に助けられ、成長して朝鮮戦争に駆り出され、数奇な境遇を経て帰国する（竹川英幸『帰りの道は遠かった』）。

昭和13年英幸さん5歳のとき、一家は長野県開拓団として、満洲・三江省樺川県に入植した。父は昭和20年8月根こそぎ動員で牡丹江に応召し、終戦で、母が英幸さんを頭に6人の子どもを連れて哈爾濱に向けて避難した。8月30日ごろ、近くの高梁畑のそばで休んでいたとき暴徒に襲われ、英幸さんは頭を強打されて気を失った。母は、下の5人の子どもを

守るためにはその場を離れるしかなかった。このとき、英幸さんを助け育ててくれたのが朝鮮人の養父母となる人であった。英幸さんは養父母に連れられ、38度線に近い養母の里に行き、そして終戦の翌年ソウルに移り住む。1950年6月25日朝鮮戦争が勃発し、養母は南に脱出したが、養父は空襲の誤爆で死去した。中学4年の英幸さんは再び孤児となり、兵隊に駆り出された。

戦線で、味方の宣撫工作隊の拡声器から「アリラン」が、次いで「トラジ」のメロディーが流れた。郷愁を誘うメロディーによって、人民軍将兵の投降を勧誘するものだった。その後、手榴弾に吹き飛ばされて負傷、入院した陸軍病院を脱走、再び兵隊に、そして大邱市の憲兵学校、

陸軍歩兵学校に入学し、休戦協定が締結される前年、まだ10代だったが陸軍少尉に任官した。

アリラン

アリラン アリラン アラリヨ

アリラン峠を越えゆく

私を捨てていくあなたは

十里も行かずに足が痛む

朝鮮民族を代表する歌としてよく知られている「アリラン」は南北共通の朝鮮民謡であることから、間接的には南北統一を願う歌といえる。2000年シドニー・オリンピックの開会式では南北の選手団が分断後初めて、統一旗を持って入場した。このとき、バックに流されたのが

「アリラン」だった。なお、南北分断の悲劇と重なるもう一つの悲劇、日本から朝鮮への「帰還事業」は昭和34年に始められ、当初の2年半に集中して、合計9万3340人の在日朝鮮人と日本人配偶者が北へ渡った。ある面、中国残留日本人の帰国問題と重なる、胸痛む事象である。

英幸さんが昭和50年帰国し、肉親との再会を果たしたのは、「中国残留孤児の父」と呼ばれる山本慈昭氏（1902～90）の尽力による。氏は出家・修行し、長野県下伊那郡阿智村で、住職として生涯の大半を過ごした方である。昭和20年、阿智村から満蒙開拓団を送ることになり、国民学校の教員を兼ねていた氏は教師役として渡満するが、わずか3か月で終戦となり、シベリア抑留の身となった。昭和22年帰国したものの、待っていたものは妻と娘の死。そして、阿智村開拓団215名のうち帰国できたのはわずか13名、また教え子51名のうち6名に過ぎなかった。氏は中国残留孤児の肉親捜しを決意、訪中し、あるいは行政に働きかけたが、ことは容易には進まなかった。

昭和44年、開拓団生存者の一人が死去するその2日前、引揚げのとき子どもたちの命を救うため中国人に引き渡し、山

本の長女および教え子たち15名が生存しているはずだと証言した。昭和45年、機会あるごとに新聞やテレビで孤児たちの存在が報道され、昭和47年日中国交正常化を機に「日中友好手をつなぐ会」が結成された。山本は私財を投じ、会員のなかで、「岸壁の母」として知られる端野いせも協力した。この年、肉親との再会第一号が実現し、昭和55年までに177名の身元が判明した。そして昭和56年以降30回にわたって、厚生省により残留孤児の集団訪日調査が実施された。のちに竹川英幸さんは、この会の大阪支部長を務めた。なお平成25年4月、阿智村に「満蒙開拓平和記念館」がオープンした。長野県から最も多くの満蒙開拓団員が送られたし、阿智村は山本氏ゆかりの地であった。

引揚げ時にわが子を託したのは中国人だけでなく、朝鮮人もいたことがわかる。しかし、養父母となった朝鮮人の場合、中国人の場合以上に子どもの素性を隠し、明らかにされないままで終わっているケースが多いのではなからうか。「朝鮮」の孤児はもっと多くいたのではないか、そして朝鮮戦争にも係わっていたのではないか。

7. 中国残留二世が希求する日中の平和友好

現在も厚生省の関係で、日本に定住帰国した満洲残留孤児の方々の支援活動に携わっておられる石山聆子さんは、いわば中国残留二世に近い。父君は台湾人音楽家・董清財氏で、満洲の音楽学校教師であった。建国10周年のとき、「満洲建国十周年慶祝歌」が公募され、自作が当選、満洲国から東京音楽学校に留学派遣された。しかし終戦後の中国で、董氏が台湾人であったこと、ならびに慶祝歌入選の栄誉を担ったことにより、一家は波乱に富んだ足跡をたどることになる（以下、林ひふみ「満洲国の台湾人と日本人、その戦後」）。

董清財氏は1906年高雄州に、代々漢方医を家業とする裕福な家庭に生まれた。音楽に強い関心を持っていた清財は日本の武蔵野音楽学校に留学するが、卒業後台湾に帰らず、大連で教師となり、1935年満洲・吉林市の高等師範学校の助教授となった。清財の妻となる日本人吉崎ヨシさんは、1913年新潟県蒲原郡加茂町で出生、生家は裕福な木材商で、地元の高等女学校を卒業後、東京の

日本女子体育学校に進学した。教員免許を取得して地元の小学校、女学校で教師となったが、1938年24歳で单身満洲に渡り、新京の小学校で音楽兼体育主任の教師となった。1939年、満洲国政府による体育講習会がヨシの勤務先小学校で開催され、ここに清財が吉林から参加して、二人の交際が始まった。翌年結婚して1940年長女董聆（石山聆子さん）が生まれ、以降全5人の子をもうけた。

「十周年慶祝歌」は名誉ある当選歌であり、董清財一家のその後の方向に大きく係わった作品であったが、満洲国崩壊後の中国では、作曲したことは一切隠さなければならなかった。また台湾人であることにより、国共内戦の目まぐるしい渦のなかだけでなく日中関係のなかでも、一家がどの道を選択するか、容易ならざる状況にたびたび遭遇した。中華人民共和国成立後、および文化大革命のもとでは、思想改造や社会主義への貢献を強要され、そして1972年日中国交正常化が成るも、日本への出国が許可されたのはヨシだけであった。1976年5月、ヨシは年末までの予定で訪日するが、その間清財は胃がんにより70歳で死去する。1982年、ヨシと5人の子どもたち、

およびその家族16人が日本に定住帰国した。当初は生活保護を受けたが徐々に自立を果たす。長女は既述のように残留孤児を援護する仕事に、次女、三女は音楽教師（それぞれピアノと声楽専攻）になった。波乱の40年余りを中国東北部で過ごしたヨシは、1988年東京で死去した。

董清財氏が1942年4月から2年間、東京音楽学校に留学して、一家が東京・原宿に住まったとき、長女董聆は13歳であったので、彼女は事実上、中国（東北部）育ちである。終戦後、一家は中国に残留を余儀なくされた。董聆は13歳で家を離れ、中国における音楽の最高学府・天津の中央音楽学院に学んだ。一家が生き延びるためには社会主義体制に沿って生きるほかはなかったが、1966年文化大革命が始まると、清財は「建国十周年慶祝歌」を作ったことが文化漢奸とされ、自宅は紅衛兵により徹底的な捜査を受け、楽譜ほか大切にしていたものは没収され戻らなかった。清財自身痛めつけられ、子どもたちも反革命とされ、董聆は天津の軍農場で4年半労働を科された。董聆は、中央音楽学院で音楽理論を学び、卒業後北京音楽出版社に勤務し、作曲家の夫と結婚して長男が生まれたばかりであったが、乳飲み子をヨシに預け

たまま、一度も帰宅を許されなかった。長男董真海と、ピアニストとして英才教育を受けた次女董韻も河北省保定の農村に下放され、養豚や開墾に従事した。父に声楽を仕込まれた三女董恒は京劇女優になる夢があったが、中学の途中で工場労働者になり、音楽を学ぶ機会を再び得ることができたのは10年後であった。

1982年一家が日本に定住帰国したとき、石山聆子さんは42歳、一家の足跡や自身の半生を顧み、国家や民族の枠を超えて平和を希求する気持ちが強い。この気持ちには中国残留日本人たちが共通に、「肌で感じている」願いであろう。石山さんはその希望を表したく「世界大同の理想」という曲を作った。できるだけ多くの人に歌ってもらいたいと念願している。本稿に楽譜を添えた。

世界大同の理想

1 安けき世界 愛に満ち
我等の理想 目指し行け
安けき世界 愛に満ち
我等の理想 目指し行け
国に大小 貧富あれ
ともに等しく 栄えん
安けき世界 愛に満ち
我等の理想 目指し行け

恩重如山、無以報答

1 根（先祖）は日本に在り、養父母の家は中国に在る

年月が過ぎるのは、水流のように早い

葉が落ち根に帰るが、養父母を思うと涙が出る

（養父母と）離れたくない、それぞれ別の天に遠く離れているがそれぞれ別の天に離れているが

2 戦争はとても怖い、家族はみなばらばらになってしまった

年老いた養父母は私を慈悲の心で引き取り

苦労して育ててくれた

その恩は山よりも重く、とてもお返しができません

お返しができません
（日本語訳「石山聆子」）

8. 満洲っ子の心をつなぐ満洲唱歌

元日銀副総裁藤原作弥さんの一家は、教師である父君の仕事の関係で、昭和17年新潟から北朝鮮に、そして昭和19年春、ソ連国境に近い興安街に移り住んだ。終戦間近いころ、ソ連軍侵攻の報に接して昭和20年8月10日、当時8歳だった藤原

さんは父親の軍官学校職員家族とともに、女・子ども・年寄りが中心の総勢150人の集団となって、興安街を汽車で脱出する。そのときある生徒が無蓋車の上で、興安嶺の山々と草原に別れを告げるため歌を歌おうと呼びかけ、「♪兎追いか

の山」と歌いかけた。そのとき誰かが、「それは日本の歌だ。ボクたち満洲の歌を歌おう」と提案し、「♪寒い北風吹いたとて おじけるような子どもじゃないよ 満洲育ちのわたしたち」と、満洲唱歌「わたしたち」を歌い、……次から次へ満洲の歌を歌った。……この歌は学校の往き帰りによく合唱した歌で、「君が代」より大切な愛唱歌だった（藤原作弥『満洲、少国民の戦記』）。

外地でよく親しまれた歌は、引揚げたあとと思いの深い歌となり、共通の思い出の歌となる。「わたしたち」などの満洲唱歌は、引揚げ後「満洲っ子をつなぐ歌」として、満洲の小学校に在学した人たちの同窓会や地縁の会で必ず歌われる。

「わたしたち」はとくに、「満洲っ子」であることを意識させる特別な歌で、内地っ子には通用しない（させない）。「わたしたち」には北風、雪、リンク、スケート遊びなど、満洲ならではの歌詞があるだけでなく、直接的な表現「まんしうそ

だちのわたしたち」があって、満洲っ子だけの歌である。

わたしたち

1 寒い北風 吹いたとて、おじけるやうな子どもぢやないよ。

（繰り返し）まんしうそだちのわたしたち。

2 それに雪さへ 降ったとて、たまげるやうな子どもぢやないよ。

3 風の吹く日は 外に出てリンクをまはろよ、スケート遊び。

4 雪の降る日も 外に出て、みんなでしませう、雪投げしませう。

（作詞・作曲 園山民平）

藤原さんは、「♪柳の棉の飛ぶ頃は黄色いほこりもかすみます 乗れ乗れ小さなロバの上 夕日の古塔を見に行こか」（「やなぎの春」）を、「♪風の姿はおもしろい 雪の原のは銀の風 砂の岡のは黄い風 桃の里では赤い風 草の山では青い風」（「風」）をと、憶えている歌詞を記し、「夕日」（正確には「赤い夕日」）

も暗誦^そんじていると記す。

藤原さん一家を乗せた列車は8月13日、朝鮮との国境に近い安東に到着する。安東は満洲では一番日本に近く、安全だと思われていた。ここで玉音放送を聞き、9月6日ソ連軍を迎えた。一家はこの地で正月を、そして1年2か月の避難生活を過ごすことになる。

9. 満洲っ子も内地と同じわらべうた

私の姉の高校における同級生・水橋晶子さん（終戦年8歳）は、外交官だった父君がシベリアに抑留され、母とともに、病死した弟の骨壺を首にぶらさげ、哈爾濱から引揚げた。満洲時代に親しんだ歌をお尋ねしたところ、その一つに「♪いちれつらんぱん 破裂して 日露戦争 始まった〜」という数え歌を連絡してくださった。はて、もしかしてと思い出したのが、かつて母から聞いたわらべうたである。2006年のころの聴き取りで、わが家の終戦後までの足跡を手記にまとめていたときだった。その折に楽譜として書き留めたのが次の数え歌である。改めて歌詞などについて調べたところ、「いちれつらんぱん」は「一列談判」（異説あり）で、手毬唄やお手玉唄として、戦後1950年代まで歌われたことがわ

かった。終戦の前年に帰国した知人・田中朋子さんもこのわらべうたを挙げ、あとで「談判」とされたとしても「らんぱん」だといい、よく歌ったという。子ども遊び唄に戦後まで、日露戦争勝利の余波が残っていたのは面白いが、子どもたちの遊びは現在とは違っていて、まだこんなものだったのかと、当時が偲ばれる。田中さんは「イチリットラー」（手鞠唄）も憶えていて、挙げてくれた。このほかよく歌われたわらべうたには尻取り唄「乃木大将」や数え歌のお手玉唄「日清戦争」などがある。

一列談判（一〜十の数え歌）

いちれつらんぱん（談判）破裂して
日露戦争 始まった

さっさと逃げるは ロシヤの兵
死んでも（死ぬまで） 尽くすは

日本の兵

五万の兵を 引き連れて

六人残して 皆殺し

七月八日の 戦いに（は）

哈爾濱までも 攻め込んで（寄って）

クロバ（ポ）トキンの 首を取り

東郷元帥（大将） 万々歳（十でとうとう大勝利）

（尾原昭夫編著『日本のわらべうた 室内遊戯歌編』）

〈歌詞解説〉①歌詞は十一以降も別資料には見受けられるが、割愛。②日清戦争の際死んでもラッパを離さなかったラッパ卒・木口小平の話は修身の教科書に載り、広く知られた。③五から七までは単なる数字合わせ。④哈爾濱までではなく、実際は奉天まで。奉天大会戦では日露両軍60万人が激突し、日本軍は限界であったのにロシア軍は哈爾濱に撤退し、クロバトキンは罷免された。⑤東郷は当時大將。海軍大將が出てくるのはおかしいが、時とともに変わったのであろう。

私は、私の年齢前後の人が集う、地元の郷土史関係のある小さな集まりでこの唄を話題に出したところ、歌詞にバリエーションはあったが、みなさん知っていた。つまり日本中の子どもたちが歌って遊び、満洲の子どもたちも同じ遊びに興じていたのであり、児童の遊び文化やその伝播の観点から興味あることである。

（つづく）

是彼會員

台湾に根付く日本

— 洞蕎麦 —

松島めぐみ（會員）

約制の小さな手打蕎麦店を開業した。今では40席ほどの店を台湾人の夫人と共に年中無休で切り盛りしている。



思えるメニューも創作し、今では家族やグループで訪れる人もいられるほど台南に馴染んでいる。時間があれば得意の三線で沖縄民謡を披露し、まさに日本をライブで楽しめる場にもなっている。ちなみに、日本からの輸入かと思っ

縁あって台湾で日本語を教え始めて1年余り、台南の日本蕎麦店「洞蕎麦」に時々お邪魔する。店主の大洞敦史氏については著書『台湾環島南風のスケッチ』やSNSで知り、台南に来てはほとんど店を訪れ面識を得た。生の日本語と言え、ほとんど教室で教師から聞く機会しかない学生のために、「台湾にある日本」を教材に何かできないかと考え、大洞氏に「校外授業」の相談をしたのが始まりだ。

実物も示しながら、蕎麦の打ち方や食べ方、台湾人に好まれる味付け、そして蕎麦屋を始めた動機など幅広い内容を、リクエストに応じて全部日本語で説明してくださった。日本への旅行で蕎麦を体験した学生もいたが、台湾で本格日本蕎麦を食べるのは初めて、しかも店主の解説つきとあって、学生たちも盛んに質問し校外学習は大成功だった。

上級に近いクラスの授業で、事前に蕎麦の歴史や原料、作り方などを学んだ後、お店で蕎麦を食べてみる

大洞氏は旅行で訪れた台湾、特に台南を気に入り、当地に根付こうと

という企画である。大洞氏は、蕎麦の実などの



洞蕎麦店主
大洞敦史さん

日本語教師の傍ら独学で蕎麦打ちを修行、予



でも片手ほどしかないそうだ。ちゃんとした食事はやはりコメの飯、という食習慣も立ち上がる。試行錯誤の末、塩辛さが苦手な台湾人向けにつゆをかなり甘めにし、「唐揚げ蕎麦」など日本人にすれば邪道とも

た蕎麦粉は台湾中部の彰化、それも平地で栽培されたもので、蕎麦は高地という思い込みが打ち砕かれたのも得難い経験だった。日本同様少子高齢化に悩む台湾は移民を積極的に受け入れており、大洞氏もその一人だ。蕎麦店経営の傍ら台南市の広報活動に協力したり、三線を携え日台コラボのイベントに参加したりと、日本文化を広める活動にも積極的に取り組んでいる。台湾の親日は彼のような民間の力に支えられていることを実感させられる。

長野一泊ツアー

戊亥芳秀（会員）

次の目的地小諸に向かった。

2018年11月19日（月）8時40分新宿から20人の参加者を乗せてバスは出発した。上田の戦没画学生慰霊美術館「無言館」、小諸「懐古園」、佐久の「橘倉酒造」を巡る1泊2日の旅だ。

小諸城の中核部分が公園として整備された小諸城址「懐古園」に到着したのは4時前で、大急ぎで井出さんの案内で園内を回る。まず「小山敬三美術館」で、係官が付きっきりで丁寧な説明をしてくれ、小諸出身の小山敬

三画伯の得意とする数々の「浅間山」や「城」シリーズなどの作品を堪能することができた。また、藤村記念館では島崎藤村の遺墨、遺品並びに関係資料などを拝観し、氏の人となりを知ることができた。しかし、何よりも庄巻だったのは園内の紅葉の素晴らしさで、写真撮影に時間を忘れ駆け足で列を追う人もいたほどだった。

宿泊は近くの「中棚荘」で、藤村の「千曲川旅情の詩」の一節にある「千曲川いざよふ波の岸近き宿にのぼりつ 濁り酒濁れる飲みて……」の岸近き宿は「中棚荘」を詠ったもののこのと。53段もある階段を上がり、リングの浮いた風情のある温泉につかり夕食の宴となった。和気あいあい歓談に花が咲き大いに盛り上がった1日となった。

翌朝9時過ぎに最後の目的地「橘倉酒造」（佐久市）に向かった。元禄時代から続く酒蔵は、井出さんのご実家で、孫文や中江兆民など多くの有名人が残した書画が残っており、井出さん

ご自身による説明に全員熱心に耳を傾けた。大きな酒樽のふたから作られた丸テーブルで弁当を食し、売店で甘酒やお酒などのお土産を購入後、立派な門の前で集合写真を撮ってからバスに乗り込み、12時半過ぎに一路帰路に着いた。

錦秋の長野ツアーは幸い好天に恵まれ、全員けがや病気による脱落者もなく無事に出発地の新宿に戻り、矢野会長の解散のご挨拶で終了した。





編・訳 上松玲子

エンゲル係数の裏を読み

2018年全国の一人当たりの可処分所得は6・5%増加し、エンゲル係数は過去最小の28・4%を記録した。

国際基準では30%～40%を比較的富裕、20%～30%を富裕としている。改革開放40年を経て57・5%からここまでに至る変化に、専門家は経済の急速な発展と国民生活の向上に見合う結果だとしている。

しかし、この一つの指標をもって全てを語ることはできない。

経済発展が不均衡で不充分である現実を忘れるわけにいかない。東部地区や中西部、発展途上地区、国境地帯などでは係数にかなりのばらつきがある。

また、エンゲル係数は消費習慣とも密接な関係があり、指数の低さが必ずしも経済的な実力を反映していない場合もある。広東省など沿海地域は経済発展を牽引する地域であるのに、係数が他地域に比べ小さくない。これはこの地域の市民が食への消費に積極的な傾向があり、逆に経済的に立ち遅れた地域の人々は食への支出に慎重な判断を要するということが影響しているのだ。

数値を単純に喜ぶのではなく、社会の現実を目を向け、発展への努力を怠らないことが大切だ。

『工人日報』2019年2月19日

校医がない

中国赤十字基金（原文は紅十字基金会）はわが国の小中高校の59・6%に校医室や保健室が置かれていないこと、青海省、

山東省、河北省、陝西省などでは校医室や保健室のスタッフのうち医学的専門教育を受けた者が2割に満たないことを報告した。原因の一つには校医の不足があるだろう。医療専攻の進路として認知されておらず、待遇が悪いため、人が集まらない。運営資金やスペースの問題もある。

まずは規定通り、全ての学校に校医を配置することや、事業に対する厳格な査定を行うことが必要だ。さらに、校医という職業名を浸透させて、待遇をよくすることで成り手を増やし、モチベーションを高めることが解決の道ではないか。

『現代金報』2019年2月18日

SNSに踊る人々

この旧正月、重慶市のある書店の人氣に火がついて多くの人が入店するため大行列を作った。だが、彼らの目的は本ではない。そこに行き、写真を撮り、自分が行った場所をSNSで皆に知らせる「打卡」という行為なのだ。SNSが生活に浸透し、

「打卡」は時代の潮流に乗って流行の一つとなっている。

もちろんこの行為には旅行業界に活況を呼び、人々の生活を豊かにし、話題を提供するなどの効果もある。反面、浙江省でミューレンベルギア・カピラリスの美しい庭園で「打卡」に集まった人々によって、美しい花が完膚なきまでに踏み荒らされてしまった事件があり、上海では武康大楼を背景に自撮りをするために、車道に立つ人々で交通が妨げられた。重慶の書店の場合は、本来の客が入店できなくなったことは想像に難くない。

これらの現象はインターネット時代の病的症状ともいえる。「打卡」の魅力にとりつかれた人々は自ら作り出したSNSというソフトの主人ではなく奴隷になってしまった。

『工人日報』2019年2月19日

学校で一人食事はだめ

教育部、国家市場監督管理局、国家衛生健康委員会が共同制定した「学校食品安全と栄養

健康管理規定」は4月1日に施行され、学校、幼稚園に適用される。

内容は、学校の食品の安全と栄養健康管理に関する学校の職責や、学校食堂、購入食品の管理や責任について定めたものだ。規定では小中高校、幼稚園では生徒たちがまとまって、大人が付き添った上で食事をする事、条件が整えば父兄が付き添い、問題提起することなどが定められている。学校での食品安全には校長、園長が責任を持ち、食品の納入元や給食業者などに関する情報を公開し、教師、生徒、父兄の代表が食品の栄養、安全管理監督に参加できる制度を構築することが求められている。

学校が自主運営する食堂に関しては公益性を保ち、利益追求に走ってはならないこと、栄養状況の改善を目的とした農村の義務教育の学校食堂は外部業者に委託してはならないこと、その他の学校で外部に委託する場合に入札などの方法で、情報を公開し、営業許可を持ち、食品

の安全に責任を持てる、社会的に信用の高い業者を選ぶことを定めている。

また、購買食品についても学校が業者の選定と管理に責任を持つことを定めている。

『工人日報』2019年3月22日

「ごみ袋にもD

今年は「ごみの分別」が流行語になるかもしれない。上海市第15期人民代表大会で「上海市生活ごみ管理条例」が可決され、7月1日の施行日からごみ分別は義務化されることになった。

上海市宝山区大場鎮の李さんは毎日ごみを分別し、2つのごみ袋に各世帯の識別QRコードのシールを貼り、団地の共同ごみ箱のQRコードを読み取ってから捨てる。ごみステーションではボランティアが立ち合い、ルールを説明し、分別がきちんとしていないかチェックする。シールを貼っていない場合は住所を書いたシールを貼らせ、違反があれば記録する。収集されたごみは輸送する過程で、「城市

管理行政執法局」に抜き打ち検査され、違反が見つかれば罰金が課され、ごみは団地に戻される。団地の管理会社に住民の管理を強化させるのが目的だ。

今はようやく慣れて時代の最先端を行っている感覚だ、と李さん。もしゴミが戻ってきたら恥ずかしいし、居民委員会に目を付けられてしまうから皆頑張っているのだという。

大場鎮の人口は40万人、150の大規模団地（原文は小区）と84の居民委員会がある。鎮政府は昨年李さんの居住区を含む2つの団地をごみ分別のモデル試験地区に指定、今年はさらに9か所、1万世帯に拡大することになった。古い団地もあれば、民間販売のマンション、立退き移転者用の代替団地も含まれる。

この事業の中で管理の徹底のため導入されたのがQRコードでごみに身分証をつける方法だ。モデル地区ではごみの管理、奨励ポイントの管理と、セキュリティやボランティア管理を組み合わせた集合住宅スマート管理

プラットフォームを構築、ごみ箱やごみが放置されやすい非常階段、上階からの投げ捨てなどの監視や取締りも行っている。

朝夕のごみ捨て時間を守り、ごみ捨ての回数を減らすことの奨励にポイント付与を導入するほか、再資源ごみを回収業者に委託して現金化し、住民の積極性を喚起している。

鎮弁公室の李副主任によれば、課題もあるという。立退き移転者用住宅は賃貸されている場合が多く、居住者の流動性が高いため管理が難しいこと、若い世代は早朝から夜まで不在で時間を守るのが難しいことなどだ。

今後、大場鎮は、上海市のモデルになるべく、より一層のインターネットとIT活用による管理システムの充実を図り、7月1日までに段階的に鎮全体への普及を推進する方針だ。

居住区でのごみ分別は入口に過ぎない。分別が潮流になれば、オフィスビルでの足元のごみ箱もなくなるかもしれない。

『人民ネット』2019年4月1日

コラム

《腰折れ文》 二十一、

渡邊澄子（会員）

日本は世界の変化に立ち遅れ、不幸状態を示す資料に溢れている。国際女性デーに合わせてMe TooからはDear Girlsで女性の地位の日本の平等度は110位、議員数は165位。管理職はG7で最下位の12割と恥ずかしい実態が浮上。男女平等の憲法から73年も経っているのに。女性活躍推進を政策に掲げたご本人の意識が明治憲法・教育勅語への回帰を望む日本会議派なのだから恥認識はないのだろう。4選の声が上がっているがとんでもない。「むしろ早期退陣を求みたい」（琉球新報）。

日本は果たして民主国家と言えるのかの象徴例は政府の沖縄対策であろう。「沖縄の民主主義とサンゴを守れ」と辺野古基地建設中止を求める第2弾の請願署名が米国で始められ、抗議行動がなされているというのに、日本政府は沖縄県民の70割超の反対、1万人超の抗議集会にも馬耳東風で土砂投入を止めないのには、怒りを通り越して啞然とさせられる。軟弱地盤の問題の解決策など持っていない。県の試算では13年の工期と2兆6500億円の工費（これ税金）がかかるだけでなく、世界にも例のない難工事なので完成はおぼつかないらしい。普天間の早期返還などあり得ないことを彼らは知悉の上で強行している。結果の責任をどうとるのか見たいものだ。住宅地にあつて騒音、危険に常時さらされている軍事飛行場として普天間とは比較にならぬ規模の嘉手納基地は押しつけたままでいいのだろうか。世界的な宝のジュゴンやサンゴその他の命も危ない。

3月26日は74年前に沖縄戦の始まった日だった。九死に一生を得た当時女学生だった90歳の女性の、国の犠牲になる悲劇を繰り返すな、政府の要人が沖縄の歴史を正しく理解していれば、県民の反対を無視して埋め立てを平然と強行できるはずがない、「政府の姿勢に恐ろしさを感じる」と述べているが、その心情の真実に心が疼く。マララさん来日。臆せぬ姿勢は見事。

安倍・菅・岩屋氏らの発言や対応には、本人の認識有無にかかわらず沖縄人は国民ではないという差別があり、これは暴力であるとの分析（野村浩也「琉球新報」）は納得させられる。敗戦を目前にして凄絶な沖縄戦に追い込んだ責任をとるどころか犠牲を押しつけて心の痛まないうちが為政者の資格はない。哀し過ぎる。

統計不正問題、森友・加計問題の未解決、法制局長官の暴言、東日本大震災の避難者なお5万2000人、原発事故対応費用81兆円、避難者の甲状腺測定

いい加減さ、廃炉問題、原発なし可能なのに原発へのしがみつき、首相自らの原発売り込み、首相発言で初めて知った徴兵制度が想像される自衛官募集、天皇退位・即位行事等々、本気で考えなければならぬ課題が山積。ああ、たまらない。

それにしても、心愛ちゃんの親による惨死に言葉を失う。「心愛」は『字通』にも「みあ」と読む例はない。「心」「愛」なんて字は美しいのに。10代前半の死因が自殺最多とは！子どもたちの生きにくい社会に未来はない。小学校の制服に高級イタリア製のお次は小学校の卒業式に袴とはどうかしている。都道府県議選に無投票が半数で、女性当選が少ないのは「票ハラ」によるという現実は見逃せない。ニュージールランドで銃乱射事件。大学名誉教授の友人がしばらく日本に帰っていたが、やっぱりあっちの方がいいと戻ったばかりだったので心配。倫理や論理はどこに？

陶々俳壇

ようよう

兼題 「董」「十」 席題 「雨」

春宵や脚の痛みをさすりつつ
長春の董幼き日の記憶

上野京

重なりし葉を持ち上ぐる路の臺（和水） 橋本紅杓
ほろほろと苦きおもひで蔭の臺

啓蟄や今日も朝から雨催ひ

大内善一

☆○地虫出づ薩摩地鶏は放し飼ひ（仁哉）（由紀子）

ランドセルに期待と不安山笑ふ
古刹へと苔の石段鐘霞む（紅杓）

岡和水

ふる里もたぶん今ごろ猫柳
ふまれてもふまれても立ち花董

佐藤若杉

○砂浜を明るく洗ふ春の波（京）
○九十の坂の登りや春暑し

柳原仁哉

子らの知る路地のぬけみち董草 馬場由紀子
利休忌や七つ下がりの雨のなか（善一）

☆最高点 ○由紀子選 （一）各特選

選後評

馬場由紀子

花すみれ小さな幸を灯しけり

善一

春の訪れを控えめに知らせてくれる董の花。草むらの中に垣の足下に。若い時には見過ごしていただろうが、苦勞を重ね歳を重ねてきた作者は、何でもなさうなことが真実幸せなのだと思つていられるのだらう。

川風に群れて目覚めし土筆かな

和水

土手に土筆が群れて顔を出している。春の訪れを知らせるか細きものたちがまだ冷たい川風に震えている。一本ならずぐに折れてしまつたが、仲間がいたら成長できそうだ。

孫娘東京マラソン完走し

京

三月三日東京マラソンが行われた。大勢のランナーたちが42・195キロを完走した。テレビで観ていると実に楽しそうだ。40キロ以上も走り抜ける体力と氣力に尊敬を禁じ得ない。

十年の友と酌み交ふ春炬燵

若杉

春になったというのにまだまだ寒い日が続いている。若い人はスポーツにレジャーにと楽しむ術を知っているが、若いとは無理もできない。温かい炬燵に入つて友と酌み交わすことを喜ぶとして。

立春や道行く人の歩幅伸び

仁哉

春になった。歩く人々の足取りも軽い。格好も真冬の厚着から解放されて身体が軽く感じられるのか、一步の幅が大きくなった。作者が眺めている道行く人もそうだが、作者自身の歩幅も大きくなつてゐるに違いない。

梅一輪呼吸は深くゆつくりと

紅杓

一輪の梅に作者は春の訪れを感じている。寒い季節には冷たい空気を吸い込まないように浅い呼吸であつただらう。しかし今は違う。微かな梅の香りを楽しもうと深い呼吸をしてゐる。

私の想ひ

上野京

昭和10年新京で生まれ、新京の京の字を頂いた上野京と申します。

今、陶陶会とご縁を頂き馬場先生の御指導で高尚な優雅な時間をもてるようになりしました。俳句についてのことは初心者で書けませんので、戦後1年で地獄と化した新京について書きたいと思ひます。

今、長春公園（当時は緑園）になっていますが、そこには7万人位の日本人の遺骨が埋めてあります。どんなに日本に帰りたいかつたことでしょう。元日本長春会の磯部荀子会長が慰霊碑建立を長春政府に申請しましたが許可おらずで、今、私は、満洲国の本を作りつつこのことを多くの人に知つて頂き、戦争の後始末を政府に働きかけたと思ひています。「不再戦中日友好和平記念碑」と中国語でできたらと、これは長春会役員だった私の責務と思ひています。

3月3日東京マラソンで3万8千人が走りましたが、その一人アメリカ留学で知り合い結婚した孫の嫁が台湾から来て走り完走。娘夫婦、次女親子、孫夫婦が10キロ、20キロ地点で応援。雨の中両側に多くの応援者！本人心が豊かになり感動、涙を流しながら走つたと。平和は有難くうれしいです！

力助会 通信

◆3月度理事会の議題 (3月28日開催)

*理事会で何が議題になっているかについて、折に触れお伝えしていきます。

●確認事項

2月度理事会議事録(案) 確認

●決議事項

1、新会員入会審査の件

2、平成31年度事業計画(案)、予算(案)の件

●報告事項

1、資金繰りについて

2、事務局報告

3、その他……各委員会報告など

◆会館1階玄関まわり化粧直し

・善隣会館を改善する内容については、これまでも全館LED照明化や全館トイレ機器の改善などを進めてきたが、この3月は玄関まわりの化粧直しを進めている。経時変化でく

すんできた壁面に手を入れ、これまでよりずっと明るい雰囲気となった。東日本大震災のときに入口上方のガラス面にあった「国際善隣協会」の金文字も入れることができた。この後はエレベーターの籠の内装、上部のLED照明化も進める。テナント様や協会訪問者にも喜んでもらえるよう、今後も計画的に改善は続けていく。

(事務局長 藤沼弘一)

会員だより

◎新会員

〈正会員〉

葉習民氏 小林紀興氏

同好会だより

〈一石会〉

3月囲碁例会優勝 遠藤文夫氏

〈謡曲会〉

5月28日例会 実施予定曲目

曲目	役	割	地頭
融	シテ宮下	ワキ村瀬	村瀬
能野	シテ鶴川	ワキ神保	宮下
	ツレ村瀬	ワキツレ澤村	

みんなの写真館

日比谷公園の春(表紙)

春うららかな屋下がり、善隣協会に向かう途中の地下鉄を霞ヶ関駅で降り、日比谷公園を抜けて新橋に向かった。公園には昼食後のサラリーマンなどが一刻の休息を求めている。小春日和を楽しんでいた。

人々のくつろぐ姿を幾つか写真に収め、池に浮かぶ噴水脇の景色を撮ろうとカメラを向けると、なんと銀座方向に

ビルの間から浮かび上がるようにスカイツリーが見えた。筆者がすぐ通り越しの内幸町に勤務していたころは右方向に東京タワーが見えていたが、これはもう高層ビルに遮られて見えない。半世紀を隔てる春風を受けて感無量で佇んだ。

(瀬崎 明)

アルハンブラ宮殿(表4上)

この写真は、スペインアンダルシアのグラナダにあるアル

ハンブラ宮殿の中です。宮殿は王のムハンマド1世から7世までかけて、ようやく完成したスペイン・イスラム文化の輝かしいモニュメントです。その美しさに「王は魔法を使って宮殿を完成させた」とさえ言われました。写真の場所は入り口近くの通路です。独特な形に剪定された木はもう木ではなく、芸術品そのものです。

(姜晋如)

金閣寺の春(表4下)

4年前の初春、京都旅行で中国人留学生と2年ぶりに日本で再会しました。留学先の立命館大に近い京都市内北西部、石庭で有名な龍安寺と金閣寺(鹿苑寺)を見学。大文字山(送り火)や大徳寺・北野天満宮に近い場所です。宿泊したホテルは北野白梅町でした。京都は訪日外国人、中国人が多いです。また行ってみたい場所です。(村田嘉明)

2019年5月の行事予定

- 7日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 8日(水) 13:00 俳句会
兼題「昼寝、毛」及び当季雑詠
- 9日(木) 14:00 ○公開フォーラム
『中国製造2025』の行方：デジタル時代における日中協力の可能性を考える
金堅敏氏(富士通総研主席研究員)
- 10日(金) 11:00 一石会囲碁例会
- 16日(木) 14:00 ○公開フォーラム
「体験談：終戦時三河開拓団、大興安嶺を超える」
大場昭蔵氏(北海道在住、満洲留用引揚者)
- 16日(木) 18:30 ◎公開アジア研究懇話会
「新しい情勢下での日本企業の対中ビジネスの現状と展望」
真家陽一氏(名古屋外国語大学教授)
- 21日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 22日(水) 14:00 公開「善隣古海塾」
「戦争の時代、そして満洲国を振り返る」第9回
塾長：古海建一氏(前当会会長、当会顧問)
- 23日(木) 14:30 第8回定時社員総会(総会後、懇親会開催)
- 28日(火) 13:00 謡曲会例会
- 30日(木) 14:00 ○公開フォーラム
「一帯一路とユーラシア共同体」
進藤榮一氏(国際政治学者、筑波大学名誉教授)

※4月27日(土)から5月6日(月)まで事務局はお休みします。

5月の会議予定

9日(木) 16:00 講演委員会	14日(火) 14:00 国際交流委員会
9日(木) 16:00 広報委員会	22日(水) 14:00 東北委員会
13日(月) 14:00 環境委員会	23日(木) 13:30 理事会(第2回)

※会員外一般聴講者の参加費は、◎印：1000円、○印：500円、無印：無料です。

※下線は通常日程に変更あり

みんなの 写真館

